

令和7年度 第1回焼津市デジタル田園都市構想総合戦略推進会議 議事録

1 日 時 令和7年8月20日（水） 10時00分～11時50分

2 会 場 焼津市役所 会議室7A

3 出席委員 太田 隆之委員（静岡大学 人文社会科学部教授）
岸 昭雄委員（静岡県立大学 経営情報学部教授）
木戸 直美委員（静岡福祉大学 子ども学部 講師）
村松 文次委員（焼津商工会議所 専務理事）
鈴木 正志委員（社会福祉法人焼津市社会福祉協議会 大井川支所長）
小池 幸範委員（しずおか焼津信用金庫 調査役）
村松 康義委員（島田掛川信用金庫 西焼津支店 支店長）
大石 哲也委員（焼津公共職業安定所 所長）
川内 十郎委員（株式会社静岡新聞 論説委員兼編集委員）
柴 睦美委員（公募）
原田 美彩委員（公募）
山元 聖委員（公募）

4 欠席委員 白石 一二朗委員（焼津漁業協同組合 常任理事）
村松 茂輝委員（大井川農業協同組合 焼津統括支店長）
大石 一宏委員（大井川商工会 事務局長）
内藤 義晴委員（株式会社静岡銀行 焼津ブロック母店長）
宇江喜 敦司委員（株式会社清水銀行 焼津ブロック支店長）
吉良 光陽オブザーバー（静岡県中部地域局長）

5 事務局 角谷行政経営部長、原田政策企画担当、大橋政策企画担当、鈴木総合計画推進担当、土肥DX推進専門鑑

6 開 会

- ・今年度委嘱となった委員及びオブザーバーへ委嘱状の交付を行った。
- ・角谷行政経営部長より開会あいさつを行った。
- ・会長の選任は互選の結果、太田隆之委員に決定した。
- ・太田会長の進行により、議事に入った。

7 議 題

(1) 報告1「令和6年の人口動態、総合戦略 KPI 実績について」

【事務局説明】

資料1「焼津市デジタル田園都市構想総合戦略 目標人口の達成状況について」

資料2「焼津市デジタル田園都市構想総合戦略 基本目標の達成状況について」

資料3「焼津市デジタル田園都市構想総合戦略 基本目標一覧」

資料4「R6年度 デジタル田園都市国家構想交付金事業実施一覧」について説明。

【委員意見】

◎人口データについて

委員から、世代別・地域別の転入・転出数、近隣市と比較した外国人の人数の推移、外国人のうち技能実習生の人数のデータが欲しい、という意見があった。事務局は取得可能な範囲で集計を行う、と回答した。

◎市の魅力を探る手法について

委員から、転入者へ転入の理由を聞き取ることや、市民意識調査で「焼津市のどんなところが好きか」という設問を設けることで具体的な施策に繋がっていくのでは、という意見があった。

◎外国人の移住定住について

委員から、大学で留学生を積極的に受け入れていきたいため、焼津市と一緒に外国人の移住定住について考えていきたい、との打診があった。事務局は、国の制度も注視しながら、こういった形でできるか考えていきたい、と回答した。

◎企業誘致について

委員から、企業誘致数の目標達成に向けてどのような取り組みをしているか、という質問があった。事務局は、地域未来投資促進法などを活用し、企業を誘致する土地の創出を進めている、と回答した。

◎外国人労働力について

委員から、技能実習制度に代わり令和9年に創設される育成就労制度について、企業へのアドバイス等に目を向けていくことも必要ではないか、という意見があった。事務局は、制度変更を踏まえた検討を進めていきたい、と回答した。

(2) 報告2「R6課題に対する今後の方向性について」

【事務局説明】

参考 R6課題に対する今後の方向性

課題1：不動産価格が社会動態に与える影響

課題2：若者、特に女性が働きたいと思える雇用環境の整備が必要ではないか

資料5 令和6年 地価調査基準地比較（宅地）

資料6 令和6年 不動産取引件数一覧（焼津・藤枝・島田）

について説明。

【委員意見】

～課題1「不動産価格が社会動態に与える影響」～

◎資料5について

委員から、同じような条件の土地で比較すると、静岡へのアクセスが藤枝より良いにも関わらず、焼津の方が藤枝より地価が安いという傾向が見て取れる。静岡市のベッドタウンとしての位置づけが今まで藤枝市に位置づけられていたが、津波のリスクも客観的にとらえられるようになり、焼津の魅力も再度見直されているのがここ数年の傾向と考える、という意見があった。

◎資料6について

委員から、字別で不動産取引件数をまとめているが、人口集積も併せて載せると別の傾向が見えてくるのではないかと、という意見があった。

また、藤枝市のように優良田園住宅制度を活用し市街化調整区域で家を建てられるようにするのでなく、市内の便利なエリアを最大限生かし、静岡市のベッドタウンとしてのエリアや雇用を作っているエリアに子育て世代を定住させる方向性が良いのでは、という意見もあった。

さらに、人がどこからどこに移ったのかが分かるようなデータがあればありがたい。可能であれば集合住宅の分譲と賃貸、一戸建ての3つに分けて分析するのが望ましい、という意見もあった。

～課題2「若者、特に女性が働きたいと思える雇用環境の整備が必要ではないか」～

◎若者に対する施策について

委員から、特に転出が大きい20代に対しどのような施策を考えているか、という質問があった。事務局は、若者に魅力的に映る仕事が少ないのではないかと、働きやすい環境が整っていないのではないかと推察しており、子どもたちに地元企業の魅力を改めて知ってもらうため、今年の11月にキッズニアの出張版企画を焼津で開催することや、特に若い女性を意識し、トイレを男女別にするなどの環境整備に係る経費の一部を助成していることを回答した。

◎企業内のコミュニケーション能力向上について

委員から、若者、女性の就労環境として重要なのは社内のコミュニケーションであるため、企業のコミュニケーション能力を高めるセミナーの開催を指標に入れてはど

うか、という意見があった。

◎女性・子どもに対する施策について

委員から、女性の参画は仕組みが先走り、現場は全く進んでいない、という意見があった。

また、女性が外で働くことで、一人で食事する子どもが増え、子どものコミュニケーション能力が低くなってしまっている。不登校の子どもも増えており、社会に出た際にうまくコミュニケーションがとれず鬱になり就労できないという悪循環になってしまっている。早めに対策をとることが、将来的に幸福度が高い住民が増えることに繋がると思う、という意見もあった。

また、子どもたちへの教育では、子どもたちに対し焼津市はこんなに魅力的なまちなんだと伝える施策も必要なのではないか、という意見もあった。

また、K P I は女性や子どもに焦点を当てていく現在の目標でよいと思うが、具体的な施策は家族単位、世代単位で行っていくとよいと思う、という意見もあった。

8 閉 会

会長から以下の意見をいただき、閉会した。

- ・課題1については委員の意見をもとにこれからデータ分析することになると思うが、課題2についても、企業のコミュニケーション能力を高めるセミナーの件について検討をお願いしたい。